

未亡人は火鉢を襖のネサに据えて侵入を防ぐらしく見せ掛けた。

電燈は灯かないのである。

よござんすつとんとんで、

かよやせぬ。

尋常一年の實子のあまえん坊まで唄つてゐた。

榮さんは十九だ。今夜は新調の衣を着て壇家へ出掛けた。

水餅をお上りんか。

去年の秋の巻煙草が四五本まだ残つとる。

朝は胡麻鹽が味噌汁のかはりだつた。

小生は二週間石塔院に居候。

庭球をしに小學校へ行きました。

降り止んだ雪は、寒い川風に悋氣してゐました。

村の風呂小屋は、七八軒宛のもやひで男女混浴です。